

P213[濱木綿子宛]①: (左圖)

P213「今日の日本の現代劇(△梓)は、歌舞伎、新派の土壌の上に初めて西洋流の現代劇(西歐近代C'=主題C')といふ新しい種を蒔く役割(D1)を演じた(D1の至小化)松井須磨子(△梓)の時代から本質的には一步も前進してゐない」⇒「須磨子調(即ち『近代化適應異常:D1の至小化』原因の須磨子調:Eの至小化)」は、案外根強く日本の女優(△梓)を支配してゐる(D1の至小化)」⇒「新劇育ちの杉村春子(△梓)さへそこから抜け出してゐない」(即ち、『西歐演劇C'への近代化適應異常:D1の至小化』に上述(△梓)は支配されてゐると言ふ事)」⇒「新派も演劇もありはしない。創作劇も翻譯劇もありはしない、明治も昭和もありはしない。日本の芝居の前衛は未だに明治の新派、いや壮士芝居なのだ」。

《歐米演劇:右圖》: * P208「役者(△梓)」⇒「主題(C')」⇒「内面(心の動き:D1)⇒「力學的に計算された形(Eの至大化)として見せてくれる(Eの至大化)事」⇒「眞の型(Eの至大化)」「寫實(リアル:E)を殺して内面(心の動き:D1の至大化)を力學的(Eの至大化)に」。

P199「藝術(C美)にも自ら客觀的基準(Eの至大化)といふものがある筈です。少くとも歐米先進國(右△梓)にはそれがある。その點、日本の劇評(左△梓)位、でたらめなものはない。なぜでせうか。歐米(右△梓)では演劇(演劇歴史C)の傳統(D1)があり、その傳統(D1)が基準(E)を作り、そして劇評家(右△梓)はその基準(E)を身に附けた(Eの至大化)専門家だからです。(中略)日本(左△梓)では芝居そのものが傳統(D1)も基準(E)も無い無政府状態ですから、役者はどうやつても觀客に責任を問はれない。氣にしなければならぬのは漠然たる人氣だけ」。

